

「D・A・I・C・H・A・N」アクションプログラムで 子どもの力を育てます！

問教育委員会学校教育課 ☎23 7143

第2次相生市教育振興基本計画「あいおいの教育わくわくプラン」のもと、子どもに身につけさせたい力を7つのキーワードに焦点化し、「ど根性大根の大ちゃん」をモデルに、教育の基本目標、基本方針、取組みを、「D・A・I・C・H・A・N」アクションプログラムとしてまとめました。幼小中学校の各段階において、教職員が共通認識をもち、夢の実現に向け粘り強く生き抜く力を育てるため、各中学校区や各学校の教育目標や独自の取組と関連付けながら、教育活動を展開しています。



『教育立市（立志：子どもたちのなりたい自分の実現）』
「夢の実現に向け 粘り強く生き抜く力」を育てる



あいおいの教育わくわくプラン 「D・A・I・C・H・A・N」アクションプログラム

D	DREAM	-----	夢、志、向上心
A	愛(きずな、ふれあい)	---	協調性、社会性、道徳性
I	ICT	-----	プログラミング能力、 情報活用能力・リテラシー
C	コミュニケーション力	---	言語能力、英語活用力など
H	非認知能力	-----	自己肯定感、チャレンジ精神 忍耐力、回復力など
A	相生愛	-----	相生ふるさと意識
N	認知能力	-----	知識および技能、思考力・ 判断力・表現力

※非認知能力とは、学力検査では測定できない、数値化することが難しい力

キーワード **D** 【夢を持つ体験活動】

早い段階から夢を持ち、夢に向かって努力していくことは、変化の激しい社会において、子どもたちが直面するであろう様々な課題に柔軟かつたくましく対応できる「生きる力」を身につけ、社会的自立を促します。「トライやるウィーク」や、卒業生や保護者、地域で活動され活躍する方に、働く意義ややりがいなどについて話を聞く機会を設けるなどのキャリア教育の充実を図ります。



キーワード **C** 【コミュニケーション力の伸長】



自分の思いを言葉にして相手に伝えることは、人間関係を築く大事な力です。言語能力や英語活用力を鍛え、円滑にコミュニケーションが図れる実践的な活動に取り組んでいます。外国人講師の配置や英検講座の実施などもその取組みの一つです。

キーワード **H** 【非認知能力の育成】

幼児期の遊びの中や自分で考え試行錯誤する過程で、創造性や粘り強さ、チャレンジ精神などが培われます。失敗しても繰り返し挑戦することで忍耐力や工夫する力が育まれ、それらのことが他者から認められることで自己肯定感の育成につながります。



キーワード **A** 【相生ふるさと意識の醸成】



小学校の総合的な学習では、地域の方々の協力のもと、農業体験やカキの養殖体験、アマモの種植えや川の水質調査など、ふるさとの良さを体験する活動を多く取り入れています。無形文化財であるペーロンについても体験乗船や中学生ペーロンなどを実施し学んでいます。

キーワード **N** 【認知能力の向上】

次ページの2種類の学力調査を分析し、学力向上につなげています。

相生市の児童生徒の学力と体力に関する調査結果

●「全国学力・学習状況調査」の結果と分析

■調査の目的

- ①義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ②学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善などに役立てる。

■児童生徒の生活習慣・生活規律の状況

生活習慣などに関する質問紙調査結果から、「地域や社会をよくするために何かしてみたい（「どちらかといえばしてみたい」を含む）」と答えたのは、小学生で **88.4%**（全国比+ 7.1 ポイント）、中学生で **79.3%**（全国比+ 4.0 ポイント）で、地域を大事に思う子どもが育っていることがわかります。

また、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という質問に対して、「思う」「どちらかといえば思う」を含む」という回答が小学生 **98.6%**（全国比+2.2 ポイント）、中学生 **96.2%**（全国比-0.4 ポイント）であり、小中学生とも **95%**を超え、高い志を持った児童生徒が育っています。

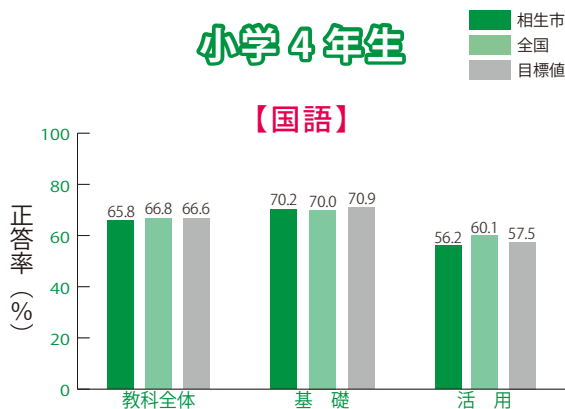
いじめはどんな理由があってもいけないことと「思う」「どちらかといえば思う」と答えた小学生は **99.6%**（全国比+ 2.2 ポイント）で、中学生は **97.6%**（全国比+ 1.7 ポイント）で全国より上回っており、「思わない」と答えた小中学生は **0%**で、いじめに対する正しい考え方が定着できています。

これらの結果から、相生の子どもたちの **D DREAM** **A 愛** **H 非認知能力**といった現状を計ることができます。

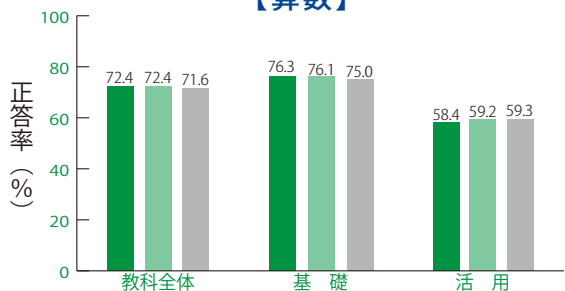
●「標準学力調査」の結果と分析

平成24年度から市独自で、小学4・5年生と中学1・2年生を対象に東京書籍の「標準学力調査」を活用した「ぐんぐん学力アップ事業」を実施しています。全国平均と目標値、相生市の3つの比較ができるようになっています。その結果と分析を下段と右ページに掲載しています。

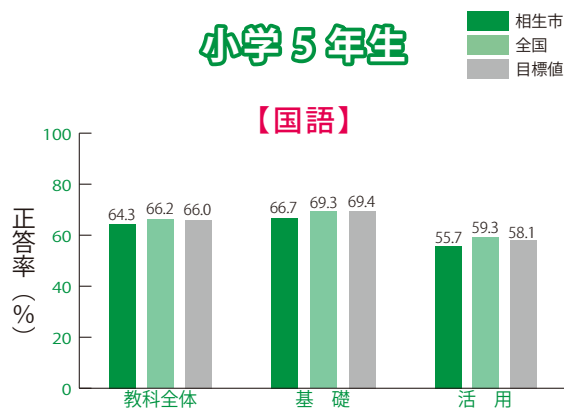
小学4年生



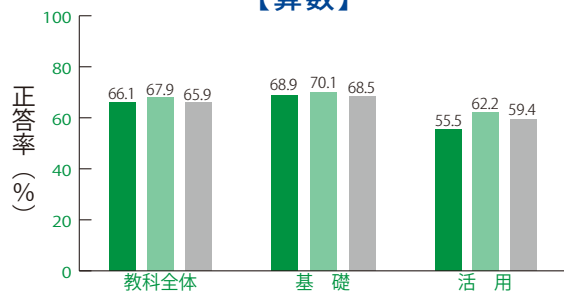
【算数】



小学5年生



【算数】

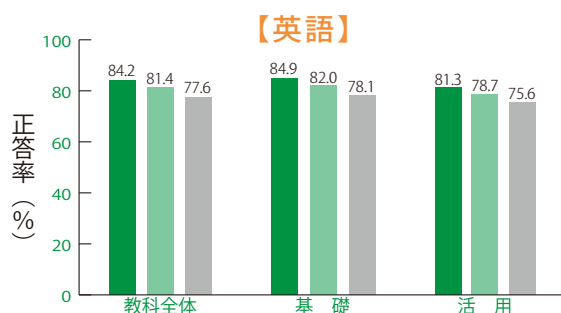
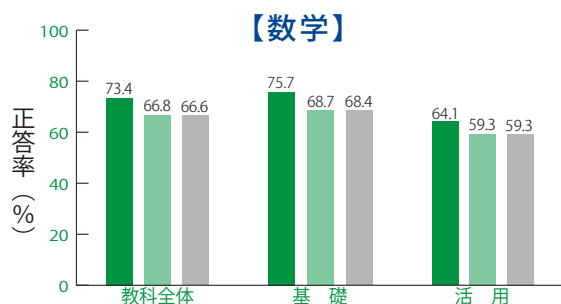
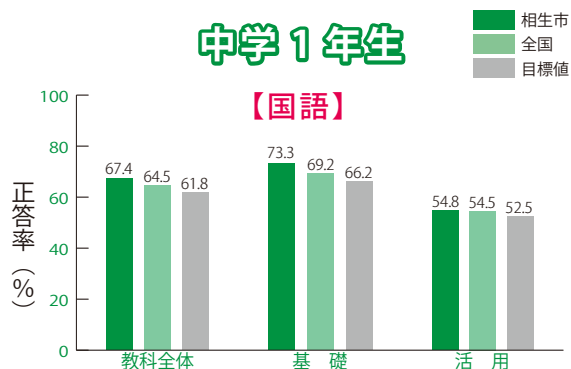


■分析と今後の指導

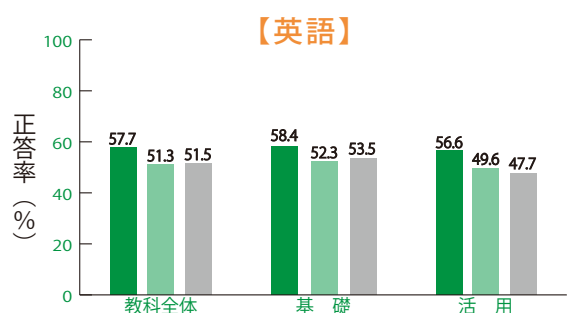
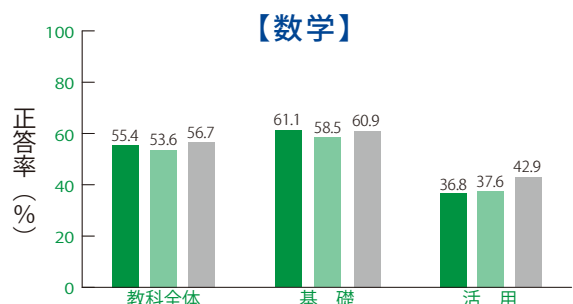
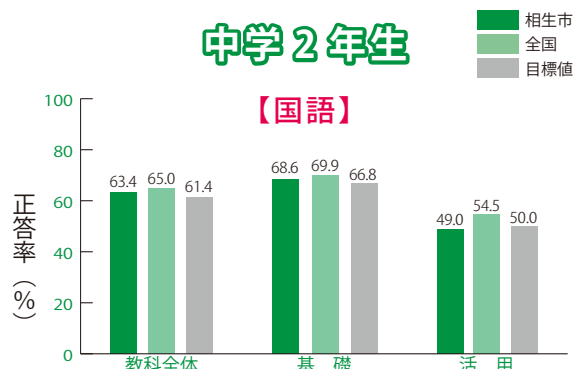
国語も算数も活用の力をつけていく必要があります。そのため、国語では、説明文の内容を読み取る力や文章をもとに話し合う力、文章を書く力を高めるための指導を続けていきます。算数では、計算力の向上や図形を正しく読み取る力を養うとともに、表やグラフを正しく読み取り、データを活用する力を養う指導を続けていきます。



中学1年生



中学2年生



■ 分析と今後の指導

数学・英語は、全国平均より上回っています。特に国語では、話し手や文章の書き手の意図や目的に応じて、話の内容を捉え適切に質問をしたり、自分の考えを明確に伝えるための文章を書いたりする力を高める指導に取り組めます。



● 「全国体力・運動能力調査」の結果と分析

小中学生を対象とした「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」を毎年実施しており、全国的に取りまとめがされています。

相生市の児童生徒は下図のとおり、持久走やシャトルラン、50m走などが全国平均並となり、長座体前屈(柔軟性)やボール投げに課題があります。 ※下表は全国平均を50とした場合の割合による数値

小学5年生	男子	女子
握力	48.1	51.2
上体起こし	46.0	48.6
長座体前屈	47.3	47.4
反復横跳び	48.2	50.1
20mシャトルラン	49.4	52.8
50m走	48.9	50.1
立ち幅とび	49.6	52.6
ソフトボール投げ	47.1	51.5

小学6年生	男子	女子
握力	50.5	52.9
上体起こし	55.1	50.7
長座体前屈	51.4	48.7
反復横跳び	53.4	50.3
持久走	49.8	50.1
20mシャトルラン	53.0	53.6
50m走	52.0	51.6
立ち幅とび	49.2	51.4
ソフトボール投げ	48.9	49.1